

早期診断と適切な抗菌薬選択につながる血液培養検査実施への取り組み

◎黒田 舞子¹⁾、榎木 雄美子¹⁾、清水 楓梨¹⁾、塩山 愛加里¹⁾、吉田 元治¹⁾
大阪府立中河内救命救急センター¹⁾

【はじめに】血液からの微生物検出は患者の生死に関わり、適切な抗菌薬治療の遅延は、患者の予後に重大な影響を及ぼす。血液培養検査は感染症の診断と治療に必要な不可欠な検査であり、可能な限り早期に微生物を検出し、臨床に結果報告を行い、診断と治療に繋げなければならない。しかし、当センターは微生物検査室を有しておらず、微生物検査を外部委託で実施しており、緊急性の高い血液培養検査の結果判定にも時間を要していた。今回は、血液培養検査の結果を、臨床に早期に報告するために、当センターが実施してきた取り組みについて報告する。

【取り組み内容】取り組み内容は、「血液培養自動分析装置導入」「多項目遺伝子解析装置導入」「検体採取時の介入」「血液培養陽性時の365日24時間対応」「コメントを加えての結果報告」「電子カルテへの記載」である。

【結果】血液培養自動分析装置導入と検体採取時の介入により、接種後すみやかにボトル装填が可能となった。多項目遺伝子解析装置導入かつ血液培養陽性時の365日24時間対応により、微生物の同定および薬剤耐性遺伝子の有無が

短時間で得られるようになった。コメントを加えて結果報告することで、医師の判断が容易となった。電子カルテの記載により、担当医以外にも周知の徹底が可能となった。

【考察】血液培養自動分析装置導入前は、外部委託先で培養が開始されるまでにタイムラグが生じていた。装置へのボトルの装填遅延は偽陰性や培養陽性時間の延長に繋がるため、血液培養自動分析装置の導入により、陽性判定までの時間は短縮されたと考えられる。血液培養陽性時の365日24時間、速やかなグラム染色の実施と報告、多項目遺伝子解析装置を用いた微生物の同定および耐性遺伝子の検出は、早期の適正な抗菌薬選択に貢献できていると考えられる。コメントを加えての結果報告とカルテ記載は、積極的な結果報告と周知体制が確立でき、適切な治療に繋がっていると考えられる。

【結語】当センターは微生物検査室を有しておらず、実施出来ることに限りはあるが、自施設で実施可能な方法を最大限活用し、迅速かつ正確な結果報告に努め、適切な診断と治療に繋げていきたいと考える。連絡先：06-6785-6166